

## 長崎市提案型協働事業提案企画書

団 体 名	とらねこ文庫
提案事業の名称	絵本で子育て応援“おひざで絵本”事業
提案事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵本とわらべうたを使った“おひざで絵本”により、乳幼児と保護者に絵本でのふれあい体験と居場所を提供することで、子育てに不安を持つ人の気持ちを和らげるとともに、子育て中の人をつなぐ。</li> <li>・ 研修を通して絵本が子育て支援のツールになることを地域の子育て支援者に理解してもらい、絵本を活用し、子育てをあたたく見守る人を地域に増やす。</li> <li>・ 参加した保護者と一緒に乳幼児向け絵本のブックリストを作成し、親子が月齢に応じて、良い絵本を選びやすくなるようにする。</li> </ul>
課 題 の 緊急性・重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成長していくうえで、自己肯定感を持てなかったり、親の愛情を実感できなかったりする子どもが多くいると言われている。一方、保護者は、子どもにどう接すると良いかわからず困っていたり、身近に乳幼児（012歳児）を連れて出かけられる場所がないと感じたりして、一人で抱え込み、孤立しがちになると言われている。子育て中の保護者には、地域で受け入れられ、支えられていると実感できる場所が必要であり、徒歩で移動できる範囲に集える場をつくるのが緊急の課題である。</li> <li>・ 親子で絵本を読む時には、身体がふれあい、互いの体温が感じられ、生の声による語りかけがある。それによって子どもは親に愛されている、受け入れられているという実感を持つ。幼少期からスマホなど様々な機器に接していく中で、まず絵本に出会う必要がある。幼少期から絵本をよく読んでもらっていた小学生の場合、月の読書冊数が16冊以上になる児童が全体の6割に達するという調査結果がある<sup>注①</sup>。また、小学校への入学前に読み聞かせの経験がある子どもほど、本を読むことが好きになり、学校の授業（勉強）が楽しいという調査結果もある<sup>注②</sup>。乳幼児期から絵本の読み聞かせを体験し、本が楽しいという気持ちが育つと本を読むことが習慣化しやすい。</li> <li>・ 絵本を読んでもらうことで、子どもの中にある想像力が育ち、他者を思いやる気持ちも養われていく。</li> <li>・ 絵本を子育てに上手く取り入れることができず、義務感から絵本を読み聞かせて、子どもに聞いてもらえないと諦めてしまう保護者もいる。絵本の楽しさを体験する機会を幅広く設け、絵本が子どもの成長や親子の絆を育む手助けとなることを伝える必要がある。</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">注① 「読書世論調査2014年版」（毎日新聞東京本社広告局）より 注② 「子ども読書活動推進に関する評価・分析事業報告書」2010年3月 財団法人 文字・活字文化推進機構より</p>

協働の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの地域で事業を実施するのが最も効果的なのか、読み聞かせグループの実態をよくわかっている行政との話し合いの中で決定することができる。ブックリストの配布、広報について協働することで広範囲で行うことができる。</li> <li>・本事業を実施することで図書館や公民館等の図書室が所蔵している本が借りられるとともに、施設の利用促進についても効果的に取り組むことができる。</li> </ul>
協働による相乗効果	<p>行政側：公民館やふれあいセンターで事業を実施し、ブックリストの本を公民館等の図書室に揃えることによって、子育て中の親子と各施設をつなぎ、子育てに絵本を取り入れる保護者による利用が増えるとともに、地域の公民館等の図書室が活性化する。</p> <p>団体側：認知度、信頼度が高まり、これまで以上に様々な企画に参加者を獲得しやすくなり、スタッフも得やすくなる。また、安定した実施が可能になる。</p>
協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な“おひざで絵本”の開催。ブックリスト作成のまとめ役。絵本とわらべうた、子育てに関する研修会の開催。</li> </ul> <p>2 本市に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の読書関連団体や関連機関との調整。地域の人たちへの広報を含むPR活動。ブックリストを効果的に配布できる場を確保し、ブックリストの本を公民館等の図書室に揃えることで親子が手に取りやすくなるような環境づくりを行う。</li> </ul>
提案事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“おひざで絵本”を月1回開催する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>全体90分で構成 <ul style="list-style-type: none"> <li>15分 参加者が集合して交流・親子で絵本を読むなど。</li> <li>20分 集団で絵本とわらべうたを楽しむ。</li> <li>15分 親子で絵本を読む。個別相談。</li> <li>20分 集団で絵本とわらべうたを楽しむ。</li> <li>20分 交流・親子で絵本を読む。個別相談。解散</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・平日以外に週末にも開催して、父親の参加を促す。</li> <li>・地域でこの事業に賛同し活動するボランティアを育成するために、絵本とわらべうたや読み聞かせ、子育てに関する研修会を年4回開催する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 絵本とわらべうたを子育て支援に取り入れている外部講師による研修</li> <li>第2回 乳幼児期の子どもの発達に関する保健師、または保育士による研修</li> <li>第3回 絵本の読み方、わらべうたについての文庫メンバーによる研修</li> <li>第4回 絵本の読み方、わらべうたについての文庫メンバーによる研修</li> </ul> </li> <li>・乳幼児向け絵本のブックリスト(0～2歳児向けの絵本を主に、3～6歳向けの絵本も紹介)を文庫メンバーと参加者、図書館スタッフが協力して作成し、“おひざで絵本”に参加した子育て中の人に配布する。図書館や公民館でも希望者に配布するとともに公民館等の図書室にリストの本をそろえて絵本を選びやすくする。</li> </ul>

<p>提案事業の 実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総括責任者 廣瀬美由紀（とらねこ文庫代表・日本子どもの本研究会会員 親子読書地域文庫全国連絡会世話人）</li> <li>・“おひざで絵本”担当者 石橋登美子（保育士有資格者・子育てサポーター） 他10名（保育士・幼稚園教諭有資格者・司書有資格者・子育てサポーター等）</li> <li>・ブックリスト作成担当者 松川百合（出版社・図書館勤務経験者）</li> <li>・研修担当者 古賀由紀（小学校読み聞かせボランティア）</li> </ul> <p>とらねこ文庫は現在市内2か所で月1回ずつ“おひざで絵本”を実施し、毎年外部講師による絵本とわらべうたの講座を開催している。主要メンバーは2016年の読み聞かせボランティア向けのブックリスト作成委員会に参加した。</p>
<p>事業 スケジュール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“おひざで絵本” 2019年4月～5月 “おひざで絵本”の告知 参加者募集 6月～2020年3月 “おひざで絵本” (1会場で毎月1回開催) 平日開催以外に週末の開催を年に3～4回設ける。</li> <li>・研修会(年4回)：外部講師による研修1回、保健師または保育士による研修1回、文庫メンバーによる研修2回</li> <li>・ブックリスト 2019年4月～10月 定期的に打ち合わせをして内容の検討 11月～12月 校正・出版 2020年1月～2月 市内3か所（第1回は市立図書館）で各1回ずつブックリストの本を活用した“おひざで絵本”を開催し、ブックリストを配布する。研修会に継続して参加した人たちにも“おひざで絵本”で絵本を読んでもらう。</li> </ul>
<p>事業の展望及び 今後の活動展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回はモデルケースとして“おひざで絵本”を新たな1会場で継続して実施していく。そこで研修を受けた地域の人たちがスタッフとして入ることにより、次年度は地域の人による“おひざで絵本”の実施が可能になる。2年間かけて開催会場（市内の大型公民館など）を増やしていき、より身近なところで“おひざで絵本”に参加できるようにする。図書館とともにこの活動を行うことにより、知識・文化の基盤を一層豊かにし、市民の役に立つものにする。</li> <li>・本事業で作成したブックリストをただ作って配布するだけにしないで、ブックリスト作成の意義、乳幼児と絵本を読むことの大切さを十分伝えられるように、ブックリストに載っている絵本を活用した“おひざで絵本”を、図書室がある公民館やふれあいセンターで開催する。地域の人向けの研修会を開く。次年度にかけてその回数を徐々に増やしていく。</li> <li>・次年度は、子育て支援センターや乳児健診の会場など、乳幼児が親子で参加する場でブックリストを活用したおはなし会を実施するとともに、絵本を親子で読む意義が伝えられるように働きかけていく。“おひざで絵本”に参加してもらえるようにつなげていく。</li> <li>・将来的には、誰もがいつでも利用できる絵本を中心にした子育て支援の居場所をつくりたい。</li> </ul>